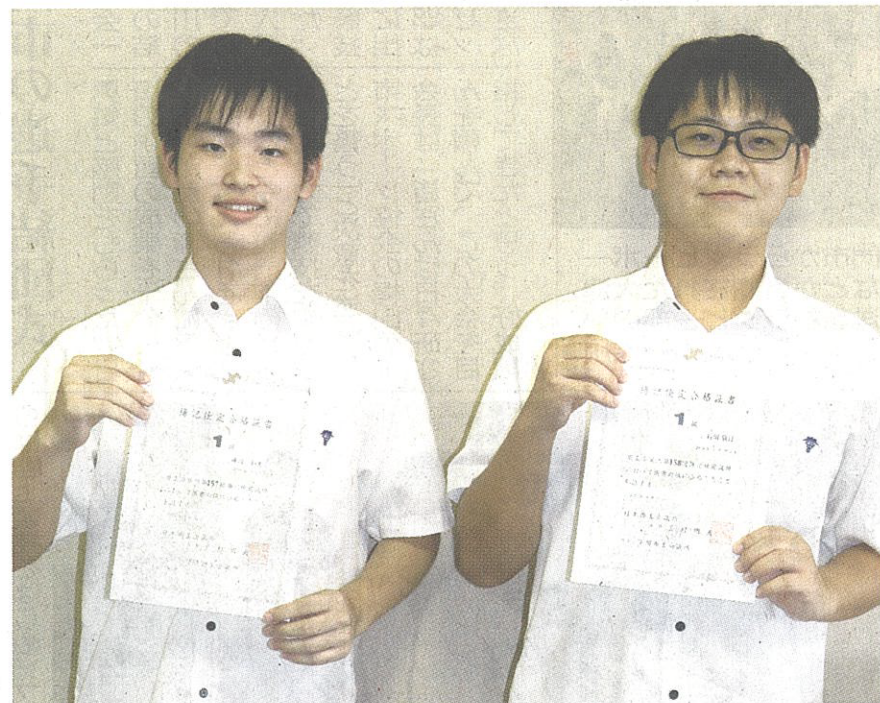


# 日商簿記1級に2人合格

## 下関商高 6年連続の快挙

下関商業高校(下関市後田町)の3年生2人が、日本商工会議所の簿記検定1級に合格した。大学卒業程度の商業簿記、会计学、工業簿記、原価計算の知識が必要とされ、受験者の大半が社会人が占める難関を突破。同校生徒の1級合格は6年連続で、16、17人目。

情報処理科の姉川知史さん(17)と谷川広洋さん(18)で、共に簿記部に所属。群馬県の高崎商科大との高大連携で大学レベルの専門教育を受けられる「日商簿記1級プロジェクト」に簿記部の活動として参加してきた。



2人は1年生で日商簿記2、3級に合格し、昨年1月から1級に挑むため準備を始めた。1級は会計士や税理士志望者の登竜門とされる難しさで、毎日放課後の3時間半、土曜も夕方まで机を並べて問題集と向き合い、知識を深めた。

新型コロナウイルスの影響で昨年は部活動ができない時期もあったが、プランクを乗り越え、姉川さんが今年2月の試験に合格。続いて谷川さんも6月に行われた試験で念願の1級を手にした。「ライバルがいるから頑張れた。これで目標に一步近づけた」と口をそろえる。

いずれも大学進学の手前で、将来は公認会計士を目指す。卒業後の進学先は異なるが、「地域、社会に貢献できるような会計士になり、コロナで苦しんでいる企業をサポートしていきたい」。次の目標は大学在学中の会計士資格の取得だ。

日商簿記1級に合格した姉川知史さん(左)と谷川広洋さん(右) 下関市後田町